

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル 地域ケア会議の推進

現状と課題

本市の特徴として要介護・要支援認定者のうち、要支援者の割合が多いほか、平成29年に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査においても高齢者の約6割が「生活支援を必要としていない」と回答されている状況がある。

本市における個別ケア会議の開催回数は、例年1桁台と少ない状況であり、その原因として、これまで個別ケア会議では、認知症に起因する要介護1以上の困難事例について検討することが多く、結果として個別ケア会議の実施回数が少なくなっているものと考えている。

高齢者のニーズに応じた多様な社会資源の活用を支援する包括的・継続的ケアマネジメントの実施に向けて地域ケア会議の推進は不可欠であり、令和2年度の政策形成型地域ケア会議の実施に向けても個別ケア会議ならびに課題解決型ケア会議の充実を図り、地域課題を明確にしていく必要がある。

第7期における具体的な取組

○個別事例による地域ケア会議の充実

・ケアマネジメントを担うケアマネジャーに、地域ケア会議の利用を働き掛け、地域課題の見える化とネットワークの活用につなげます。

○地域課題の発見・把握、地域づくり・資源開発の検討等のための地域ケア会議の推進

・個別ケア会議で把握した地域課題について、地域包括支援センターと連携し、日常生活圏域ごとに医療機関、介護サービス事業者、社会福祉協議会、民生委員等で構成する会議を開催し、地域に必要と考えられる資源を検討します。

○政策形成型検討会議等による地域ケア会議の推進

・日常生活圏域ごとの課題を集約し、関係機関で構成する全市的な会議を開催し、必要な施策等について検討します。

○地域包括支援センターの充実

・地域包括支援センターは、地域包括ケアシステム構築の中核的な役割を担い、地域ケア会議の推進、生活支援サービスの推進、在宅医療・介護連携の推進等に密接に関わるため、その機能の強化が求められることから、地域包括支援センターの継続的、安定的な運営推進に向け、地域包括支援センター運営協議会と連携し、適切な評価の実施に取り組みます。

目標（事業内容、指標等）

○高齢者を支える多職種が協働して高齢者が抱える課題の解決を図るとともに、地域支援のネットワークを構築する。

○個別支援の取組を重ねることにより、地域に共通した課題を明確化し、地域課題の解決に必要な地域づくりや必要な資源の開発、介護保険事業計画への反映など政策形成につなげる。

目標の評価方法

● 時点

中間見直しあり

実績評価のみ

● 評価の方法

・ 個別ケア会議の実施回数の増加及び地域課題の明確化

- ・ 自立支援および重度化防止資する多職種協働による介護予防のための個別ケア会議の実施
- ・ 政策形成型ケア会議の開催に繋がる地域課題解決型ケア会議の実施